

臨床思考過程教授部分に課題分析を用いて 足場かけを設計した授業改善

Improving Classes by Designing Scaffolding Using Task Analysis in the Clinical Thinking
Process Teaching Part

吉村友希*,** 戸田真志** 久保田真一郎** 鈴木克明***
Yuki Yoshimura *,** Masashi Toda** Shinichiro Kubota** Katsuaki Suzuki ***

*熊本保健科学大学 **熊本大学 ***武蔵野大学
* Kumamoto Health Science University
** Kumamoto University *** Musashino University

＜あらまし＞ 作業療法教育での臨床思考過程の教授においては、指導者側も学生側もその指導や理解の難しさを抱えている。そこで、今回は、授業における臨床思考過程の教授部分の課題分析を行い、内容が明確になるよう足場かけを設計する改善を行った。その結果、改善後授業は、治療計画立案における臨床思考過程に対して、改善前授業より効果的であったことが示唆された。

＜キーワード＞ 臨床思考過程、課題分析、授業設計

1. はじめに

作業療法教育では、作業療法士としての基本的態度、臨床思考過程、臨床技能の修得が求められる。しかし、臨床思考過程においては、指導者側も学生側もその指導や理解の難しさを抱えている。そこで、今回は、授業における臨床思考過程の教授部分を改善し、その効果を検証したので報告する。

2. 方法

2.1. 対象授業

対象とした授業は、作業療法士養成課程の学部 3 年次前期に開講されている必修履修式の専門科目「臨床精神機能作業療法学」であった。当該科目は、精神疾患を有した事例の治療計画を立案すること、治療的態度を実践することを学習する科目であった。改善前授業の受講者は 49 名、改善後授業の受講者は 35 名であった。

2.2. 授業目標

授業の目標は、改善前授業、改善後授業ともに、(1)事例の有する疾患の特徴を踏まえた治療計画を立案することができる、(2)事例の有する疾患の特徴を踏まえた治療的態度を実践することができるであった。本報告では、(1)臨床思考過程に焦点をあてる。

2.3. 授業設計

臨床思考過程の課題において課題分析を行い、改善後授業においては、内容が明確に

なるよう足場かけを設計した。足場かけ設計には、ID の第一原理を用いた。改善後授業の具体的な設計内容を表 1 に示す。なお、改善後授業における臨床思考過程設計の 2 コマは、事例を変え 3 回繰り返す、計 6 コマ行った。

2.4. 収集データ

改善前授業、改善後授業ともに、治療計画立案（以下、立案）1、立案 2、立案 3 のルーブリック評価結果を立案得点として用いた。ルーブリックのレベルを得点とし、3 点から 0 点までとした。

3. 結果と考察

改善前・後および立案回を独立変数、治療計画立案得点を従属変数とする二要因分散分析を行い、F 値を求めた。その結果、改善前・後の主効果 ($F(1, 82) = 6.69, p < 0.05$)、立案回の主効果 ($F(1, 82) = 6.82, p < 0.05$) が有意であった。Bonferroni 法による多重比較の結果、改善後授業が改善前授業より有意に高く、立案 1 が立案 3 より有意に高かった。このことから、改善後授業は、治療計画立案における臨床思考過程に対して、改善前授業より効果的であったこと、立案 1 の事例は、事案 3 のものより基本的なものであり、思考しやすかったことが推測された。また、交互作用 ($F(2, 164) = 5.486, p < 0.01$) も有意であったため、単純主効果の

表 1 改善後授業における臨床思考過程の設計

コマ	事前課題/授業/事後課題/最終課題	活動形態	具体的学習内容	IDの第一原理
1	事前	個人	事例の状態をICFを用いて分類する	活性化
	授業	グループ	ICF分類の際に、分かりにくかった箇所について話し合い、疑問を解決する	例示, 応用
		グループ	ICF分類をもとに、事例の肯定的側面、否定的側面について話し合う	応用
		グループ	事例の否定的側面から作業療法が担う生活課題について話し合う	応用
		グループ	事例の回復段階を推測し、作業療法が担う生活課題の優先度について話し合う	応用
		個人	教員の考えたICF分類と生活課題の説明を聞く	例示
	事後	個人	事前課題のICF分類を修正し、作業療法が担う生活課題を追記する	応用
2	事前	個人	事例の生活課題を解決するような治療計画を立案する ・予め定められた作業活動を用いる ・チェックリストを参照する	例示, 応用
	授業	グループ	事前課題で立案した治療計画を共有する	例示, 応用
		個人	作業療法士の立案した治療計画の解説動画を視聴する	例示
	事後	個人	事前課題で立案した治療計画を修正する	応用
		個人	教員から治療計画立案のフィードバックを受け、再提出を推奨される	応用

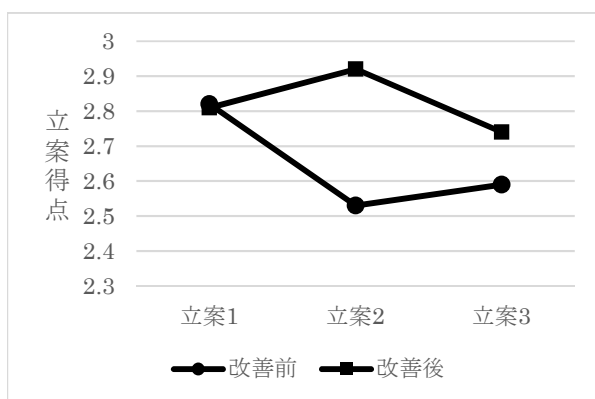


図 1 改善前・後授業の治療計画立案得点の平均値

検定を行ったところ、立案2において、改善後授業が改善前授業より有意に高かった

($F(1, 82) = 11.50, p < 0.001$) (図1). このことより、改善後授業は、立案2における臨床思考過程に対して、改善前授業より効果的であったことが示唆され、課題分析に基づいた足場かけ設計の有効性が示された。

4. おわりに

今回行った授業の課題分析に基づいた足場かけ設計による臨床思考過程の教授部分の改善は、改善前より効果があったことが示された。

謝辞

本研究は、JSPS 科研費 JP 22K02903 の助成を受けたものである。